

モバイル利用のライフスタイル研究(1)

—人間関係意識の時系列的考察—

○吉良 文夫 (NTTドコモ モバイル社会研究所), 鮑戸 弘 (東京大学名誉教授)

キーワード: ケータイ, スマートフォン, 人間関係, ライフスタイル

【背景】

NTTドコモでは携帯電話が社会生活に与える影響・効果を実証的に検討すべく、2003年3月と2010年9月に「携帯電話ユーザーのライフスタイルに関する調査」を実施し、2003年と2010年でのケータイの機能の変化、ケータイ利用による生活への影響について報告¹⁻³⁾した。前回調査から10年が経過し、スマホの急速な普及と機能・サービスの多様化が進み、スマホに代表される携帯電話は今や日常生活に欠かせないツールになりつつある。本報告は2020年1月に実施した調査により、ケータイ利用と人間関係に関する意識の構造変化について追跡調査を行った結果を報告する。(前回報告では2003年、2010年で個別に分析を実施したが、本報告では比較に重点をおき、同一設問・同一クラス数による再計算を実施。)

【方法】

調査方法 2003年3月、2010年9月: 東京50キロ圏に在住の15~59歳の男女で、ケータイ利用者を対象に、性年代で割付。訪問面接調査、サンプルサイズ:500
2020年1月: 首都圏(1都6県)在住の15~79歳の男女を対象に、性年代・居住地(都市規模)で割付。訪問留置調査、サンプルサイズ:700

手続き 2003、2010、2020年の各調査について人間関係ライフスタイルの12設問《知人との関係強化、人間関係のタコソバ化、旧友との仲が復活、人の意外な面を発見、新しい友達、会ったことのない友だち、交友関係拡大、相手によるツール使い分け、内容によるツール使い分け、相手による設定使い分け、コストをかけてもよい、面倒臭いとわれない》の因子分析により得られる4因子《交流深化化、交流拡大、使い分け、高機能志向》に基づくクラス分析(k-means法)を実施(表1(a),(b),(c))。各クラスターの所属サンプルの特徴について、ライフスタイル(基本属性、ICT利活用)に着目した比較・分析を実施。

【結果・考察】

クラス分析の結果、2020年は2010年と同じ構造(“積極型”、“使い分け型”、“高機能志向”、“消極型”)が得られた。なお、2003年では“高機能志向”の代わりに“交流深化型”が析出されている。2003年当時は第2世代が主流であり(FOMA900iシリーズの登場は2004年)、高機能の概念が限定的でイメージし難かったものと考えられる。一方、2010・2020年では交流深化因子に関

する影響が弱くなっておりF Ratioの値が小さくなっている。これは普段使いのコミュニケーション手段として携帯電話の位置付けが確立し、ユーザーによる濃淡が現れ難くなったと推測される。2020年は2010年よりも消極型の構成比(%)が増えているが、これは60~79歳(197サンプル)と端末非所有者(59歳以下:7サンプル)が調査対象に含まれているためであり、これらを除いた場合の構成比は2010年と大きく変わらないことを確認している。しかし、各クラスターの社会的分布には変化が生じており、特に、積極型クラスターには2003・2010年は端末所有期間が短い若い年代が多かったが、2020年はこの傾向が認められない。価値観(お金を使っても惜しくないこと)は、積極型と高機能志向にエンジョイすることを重視する傾向が表れている。ICTサービスの利用では、電子メール送受信の利用率は使い分け型が最も高く、SNSは積極型と使い分け型が高いというようにクラスター毎に傾向があることを確認した。

表1 人間関係ライフスタイルのクラス分析(k-means法)
(a) 2003年調査

	積極型	使い分け型	交流深化型	消極型	F Ratio
交流深化	0.42	0.10	0.75	-0.77	194
交流拡大	1.69	-0.34	-0.40	-0.21	339
使い分け	0.19	1.09	-0.56	-0.50	304
高機能	0.24	0.14	0.10	-0.27	12
%	15.2%	25.8%	24.0%	35.0%	
N	76	129	120	175	

(b) 2010年調査

	積極型	使い分け型	高機能志向	消極型	F Ratio
交流深化	0.58	0.06	0.09	-0.32	25
交流拡大	1.74	-0.47	-0.46	-0.21	411
使い分け	0.22	1.04	-0.46	-0.55	220
高機能	0.09	-0.07	1.37	-0.58	148
%	16.5%	25.7%	17.3%	40.4%	
N	83	129	87	203	

(c) 2020年調査

	積極型	使い分け型	高機能志向	消極型	F Ratio
交流深化	0.53	0.25	0.06	-0.30	38
交流拡大	1.61	-0.42	-0.35	-0.25	397
使い分け	0.03	1.41	-0.43	-0.39	297
高機能	0.12	0.03	1.16	-0.50	227
%	16.0%	18.2%	18.2%	47.5%	
N	110	125	125	326	

引用文献

- 1 鮑戸, 向田, 野村 "ケータイ・ライフスタイルの時系列的考察(1) 一人間関係の構造変化" 日本行動計量学会第39回大会抄録集 1-4, 2011-09-11
- 2 鮑戸, 向田, 野村 "ケータイ・ライフスタイルの時系列的考察(2) ケータイ機能利用の構造変化" 日本行動計量学会第39回大会抄録集 5-8, 2011-09-11
- 3 鮑戸, 向田, 野村 "ケータイ・ライフスタイルの時系列的考察(3) ライフスタイルの社会的分布" 日本行動計量学会第39回大会抄録集 9-12, 2011-09-11